

● 永田 和 宏 選

屋台とは影を剥がした男等の影縫ふところ月の虹浮く
(霧島市) 秋野 三歩

ひとみしりごまかすための酒でした今もそう
です夜のひるがお
(市原市) 長井 昭二

奨学金下ろして食べたラーメンのひとつ卵の
美味かりし日よ
(観音寺市) 篠原 俊則

ポロシャツをきつちりズボンの中に入れ昭和
の男向こうから来る
(茨木市) 瀬川 幸子

天台寺焼印ひとつある籠を母の形見に今日の
飯盛る
(多摩市) 豊間根則道

御巢鷹の尾根に登りて語りあふ二度の黙礼最
後の別れ
(鈴鹿市) 渥美 義秋

ワタシという乗り物ずいぶん乗ってるが一時
停止が多いみたいだ(東京都府中市) 青木 凧

☆昼休み残り10分の教室にパンの半額セールの
放送
(奈良市) 山添 葵

十人ではかたを作りレースする琵琶湖の水は
けっこう冷たい
(奈良市) 山添 聡介

今はまだタッチパネルへ触れることやらせて
もらえているニンゲン(松阪市) こやまはつみ

【評】一、二首目、剥がれた影を縫い合わせるための屋台。ひとみしりをごまかすための酒。言い訳めいてはいるが、本音でもある。二首とも結句に意外性があり巧い。篠原さん、奨学金が入った、さあラーメンだと。彼の日の卵の慎ましいうさ。

◆ 川 野 里 子 選

よく随いて来てくれたねと遺書にあり並んで
生きた人生なのに
(横浜市) 塚田 ゆう

金髪のカツラ目立って華やいで同窓会へガン
だから行く
(奈良市) 笠井智津子

山椒の木を飛び回るあげは蝶どの葉に産むか
が親にできること
(綾瀬市) 小室 安弘

「疲れきって覚悟したのでしょう」熊の胸に麻
酔銃うちし獣医のことば(茨城県) 原 里江

在宅は確かながらも存命か確かならざる室外
機ある
(相馬市) 根岸 浩一

朝々に布団を仕舞う足裏に畳に残る生きてい
る熱
(奈良市) 三ツ星治枝

教え子にふいに呼ばれた「お父さん」親子の
ようにしばし佇む
(八幡市) 児玉 良一

熊ん蜂黒く大きな身体して水たつぷりの吾に
近づく
(岐阜市) 後藤 進

5万回斬られた人がいると知り就活始めた引
きこりの友
(寝屋川市) 今西 富幸

アルパカに視線をふいに向けられて思わず
くりわらいを返す
(船橋市) 藤本 典裕

【評】一首目、夫と妻の意識のズレは遺書だからこそ辛い。二首目、自らを、そして同級生を励ます金髪のカツラだ。三首目、親にできることは本当は少ない。五首目、高齢化と酷暑のただ中の室外機。七首目、ふと呼び間違えた子供が愛おしい。